

MTP41 ユーザーマニュアル

広帯域ワイヤレス
ベルトパック型
トランスミッター

SN: _____

Rev.03 (リファレンス FW 1.30.0A)

日付:2015年2月20日



はじめに

MTP41 は、ワイヤレスマイク用に特別設計されたきわめて小型・軽量のベルトパック型トランスミッターです。

OLED ディスプレイ、専用ボタンおよびジョグダイヤル式セクターにより、操作は非常に簡単です。

MTP41 は、ノイズや相互変調に対する安定性が強化されるとともに、最新の Wisycom 無線技術を搭載しています。

図 1



電源をオン

電源の電源スイッチを I の方に動かします。

緑色の点滅で
バッテリーステータスを表示します。

ディスプレイを表示させる

<SELECT>スイッチを押し続けます。

MIC 本体をオープン

サイドボタンを押し、カバーを開くとセットアップコントロール部やバッテリーがあります。

- ① スイッチを入れて無線通信を有効にします。またバッテリーステータスおよび(PTT による)ピーク/ミュートも表示されます。
- ② RF 送信/バッテリーステータス/変調ピーク/PTT ステータス情報を表示する LED
- ③ トランスミッターセットアップ用の OLED ディスプレイ
- ④ <CH>、<GAIN>、および 3 ポジション<SELECTOR>
- ⑤ バッテリーホルダー
- ⑥ カバー(プッシュサイドボタンで開きます)

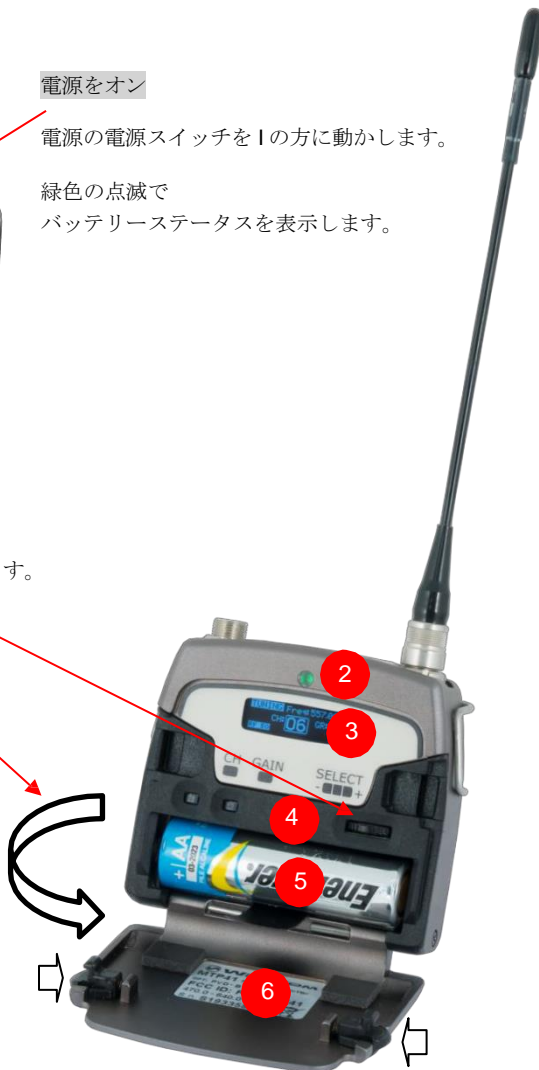


図 2

安全に関する説明

- 最初に、以下の安全に関する説明および本マニュアルをお読みください。
- すべての指示および説明に従ってください。
- 本マニュアルを紛失しないでください。
- ヒーターの近くや高温環境内に本製品を設置しないでください。また、動作温度範囲外で使用しないでください。
- 本製品を開かないでください。資格のあるサービス技術者のみが操作することができます。正常に動作しない場合や液体や水分ほか何らかの落下により、本製品が破損した場合には点検が必要です。
- 当社が認定または指定した付属品または交換用部品のみをご使用ください。
- 本製品の清掃には液体を使用せず乾いた布のみをご使用ください。
- 本マニュアルの前カバーにあるシリアル番号および購入日付をお知らせください。正規の交換用部品または付属品を当社から入手する際に必要です。
- 交換用部品が必要になった場合には、当社認定品のみをご使用ください。認定部品を使用すると、感電、事故や火災を及ぼす危険があります。
- 本製品上の警告または危険に関するすべてのラベルにご注意ください。

LED インジケータ

前面にある 2 色 LED (赤&緑)の LED インジケータ②について

- 無線送信ステータス：電波送信中は緑に点灯します。
(装置の電源がオンの場合、LED は赤に点灯し、電波送信中は緑に点灯します)。
- バッテリーステータス（電池残量）：緑：点灯(25%以上)、
ゆっくり点滅(25%未満)、速く点滅(12%未満)
- 変調ピーク(作動時)：赤が点灯します。
- PTT ステータス：アクティブの場合、赤が点灯します。
(PTT ボタンが押されている場合)

バッテリー

MTP41 は、1 個の単 3 アルカリ電池、ニッケル水素電池またはリチウム電池で動作します。
(セットアップメニューから正しい種類を選択してください)

バッテリーステータスは、内部 OLED ディスプレイまたは前面にある LED ステータス②から確認できます。

バッテリー交換

- トランスミッターのカバーを開き、指示されている向きで電池を挿入します。

アンテナ

MTP41 には 2 本のアンテナが同梱されています。使用帯域に従って異なるアンテナが必要です。アンテナには黒のキャップおよび白字でコードが表記された黒ラベルがついています。詳細については以下の表を参照してください。



帯域	範囲 (MHz)	コード
1	470~640 MHz	507
	547~640	590
2	566~798 MHz	616
	672~798	732
3	510~698 MHz	552
	595~698	646

Ant: 590

トランスミッターの電源をオンにして周波数範囲の変更後同調選択の間、アンテナコードがディスプレイに表示されます。それにより、正しいアンテナを選択できます(たとえば、周波数を 566 MHz から 672 MHz に変更すると、ディスプレイに<Ant.732>と表示されます)。

電源オン

電源スイッチ(図 1 を参照)を「I」位置に動かし、トランスミッターを作動します。前面 LED②が、赤く点灯した後、送信回路がオンになると緑の点灯に変わります(バッテリーが低下しているときには点滅します)。

セットアップ

トランスミッター本体を開くと、「ディスプレイ&セットアップ」エリア(図 3)を確認できます。



OLED 電源オン(OLED オフ状態から)

セレクター<click>を押すと、OLED がオンになります。最初にシリアル番号およびブランドロゴが表示されてから、<Status>メニューに自動的に変わります。

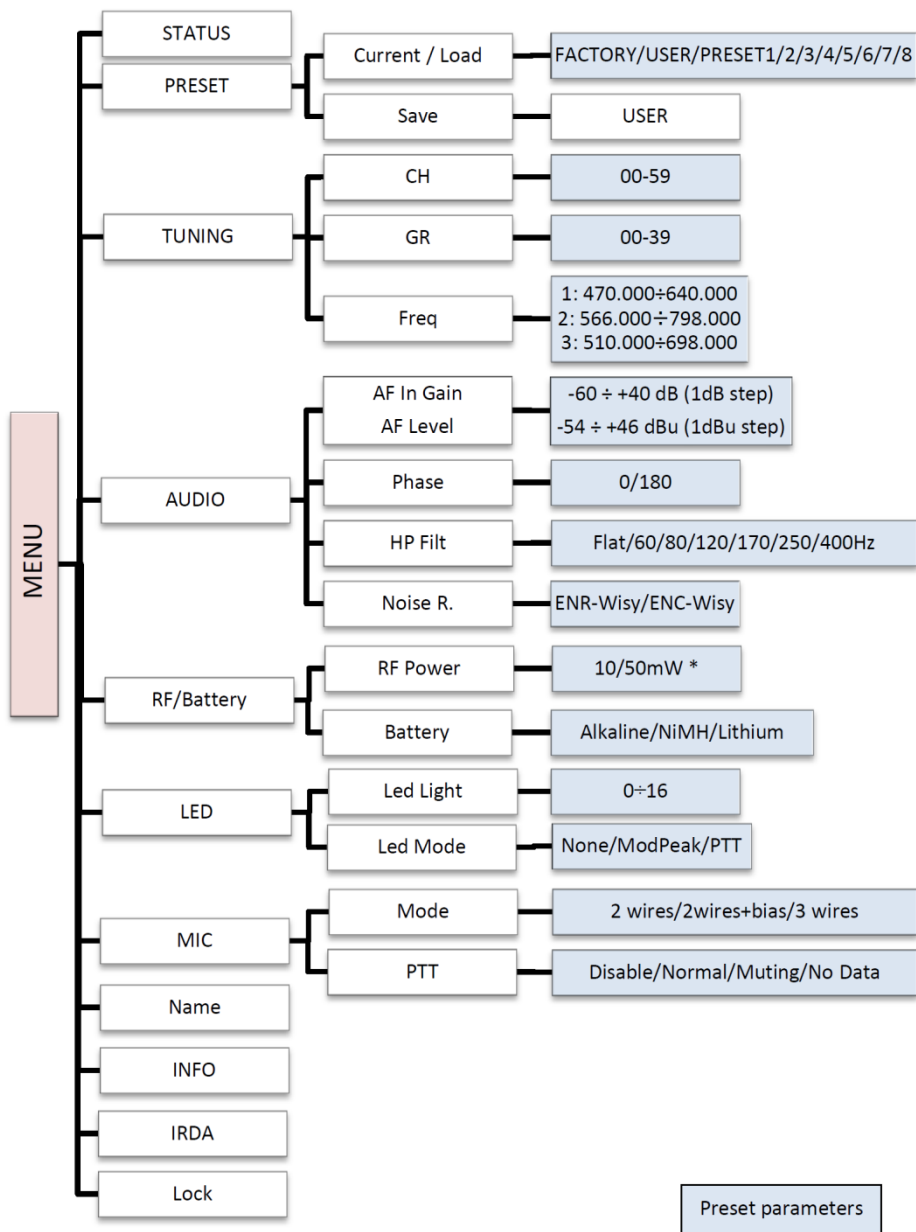
セレクター(<click>)を 2 秒以上押してトランスミッターをオンにすると、シリアル番号の画面が、<-/+>が選択されるまで表示されます。

OLED 電源オフ(OLED オフ状態から)

セレクター(<click>)を 2 秒以上押したままにすると、ディスプレイはオフになります。

(公称値からオーディオレベルが 5%未満の)<AUDIO>メニューが表示されている場合を除いて、ディスプレイは 15 秒後に自動的にオフになります。

ディスプレイメニュー



*電力プロファイルに依存します。

<+/->セクターを使用すると、すべてのメニューに順番にアクセスできます。<click>を押すと、編集モードになります。



<+/->を押して、フィールドをセットアップします。
再度<click>を押して、変更内容を確定し終了します。
何もボタンも押さないで数秒経過すると確認なしで終了します。

<START UP>メニュー

これらの項目は、電源オンの間に数秒間表示されます。

	<p>最初に、使用するべきアンテナに関する情報が表示されます。表示される数字は、使用対象アンテナの中心帯域です。</p>
	<p>次に、製品に関する以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 製品 ID (MTP41) - ファームウェアリリース番号(例: 1.30.0A) - 拡張形式による帯域と - シリアル番号 <p>セクターを押し続けると、この表示を維持できます。</p>

<STATUS>メニュー

電源を入れると、最初に表示されるメニューです。

	<p>以下の主要情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 現在のチャンネル/グループ (例: CH:00 GR:39) - 現在の周波数(例: 566.000 MHz) - マイクゲイン(例; AF: +00 dB)および高域フィルター(例; HP: 60 Hz) - 「RF 50」または「RF 10」が上部右側に表示されている場合には、送信がそれぞれ 50 mW または 10 mW でアクティブになっています。 - 左側には、バッテリーバーが表示されます。
--	---

<PRESET>メニュー

このメニューには、スクロールセクターで選択できます。

	<p>MTP41 では、構成プリセット値を呼び出すことができます。</p> <p><FACTORY>は、工場出荷時の設定を呼び出します。</p> <p><USER>は、ユーザー構成プリセット値を呼び出します(トランスミッター構成プリセット値は、<save to>サブメニューを使用すると、<USER>にコピーされます)。</p> <p><USER>メニュー項目はすべて、デフォルトではロックされていないので、これが設定を解除する手っ取り早い方法です。</p> <p>(周波数を低くするために)PRESET のパラメーターを変更する場合、保存コマンドが実行されるまで右上隅にアスタリスクが表示されます。</p>
--	--


残りの 8 個の構成プリセット値は、赤外線および PC インタフェース(プログラマー-UPK 300/UPKMini またはレーザー-MRK950/MRK960)を使用してプログラミングできます。

本製品には、特定のマイクロホンやアプリケーション用に特別な構成プリセット値を設定してあります(プリセット値は、TX マネージャを使用していつでも変更できます)。すべてのパラメーターを、“未変更のまま”、“変更”または“変更してロック”とすることができるので、MTH41 の構成値の事前プログラミングは非常に柔軟に行うことができます。



<TUNING>メニュー

このメニューは、スクロールセクターまたはクイックチャンネルセットアップボタン(<ch>)で選択できます。

	<p>このメニューでは、チャンネル/グループおよび周波数を設定できます。グループ名は、ディスプレイの上部右側に表示されます。SYNC グループは、レシーバーによって同期されているクイックセルフ設定可能なチャンネルです(ディスプレイの上部右側には、SYNC グループとともに、同期されたレシーバーの名前が表示されます)。セクター(<+/->)を使用して値を変更し、<click>で確定させます。</p> <p>クイックチャンネルセットアップボタン(<CH>)を使用すると、チューニングメニューに素早く進めます。このメニューは表示レイアウトが異なるのでご注意ください(横の画像参照)。</p>
--	--

<AUDIO>メニュー


<AUDIO>メニューには、すべてのオーディオパラメーターが表示されます。

(このメニューは、<+/->で表示させます)

	<p>オーディオ入力の感度は、<AF Gain>(dB で測定)と<AF Level>(dBu で測定)で設定できます。適切なオーディオゲイン設定を行うための、オーディオピーク(0 dB、公称偏差 40 KHz)までのヘッドルームを示すオーディオバーが(最大ピークインジケータとともに)あります。オーディオバーのピークまで到達しないように最大入力信号でゲインを設定します。バーの最大ピークは-6dB 前後になるように設定してください。</p> <p>感度のクイックゲインセットアップボタン(<GAIN>)を使用すると、オーディオゲインメニューにすばやく進めます。このメニューは表示レイアウトが異なるのでご注意ください(横の画像を参照)。</p>
	<p><AUDIO>メニューの 2 番目の項目から以下の設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - オーディオ位相 : 0°または 180° 注 : トランスミッターの MIC モードが「2wires+ bias」に設定されていると「2 線式バイアス(2-wires + bias)」のマイクロホンは位相を反転するので、位相は自動的に反転され、そのため、システム全体(MTP4x とマイクロホン)の位相は 0°となります(ディスプレイ上、位相の近くにアスタリスクが表示され、位相が反転されたことが示されます)。 - 高域フィルター : Flat/ 60Hz/ 80Hz/ 120Hz/ 170Hz/ 250Hz/ 400Hz など、さまざまなオーディオ HP フィルターに適用されます。
	<p><AUDIO>メニューの 3 番目の項目からノイズリダクションを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ENR-Wisy: 最大ノイズリダクション用 ● ENC-Wisy: オーディオ最大忠実度用(特別な音声またはリモート装置に使用します)


<RF/BATTERY>メニュー

このメニューは、スクロールセクターで選択できます。

	<p>RF 電力には、(電力プロファイルに応じて)100 mW、50 mW、または 10 mW を設定できます。</p> <p><Battery>メニューを使用して、使用するバッテリーのタイプを選択します。MTP41 は、バッテリータイプとしてアルカリ/ニッケル水素/リチウムをサポートしています。</p>
---	---

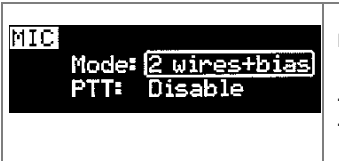
<LED>メニュー

このメニューは、スクロールセクターで選択できます。

	<p><Led Light>では前面の LED の明るさを変更できます (0~16)。</p> <p><Led Mode>は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ModPeak : 前面の LED 上の変調ピーク LED を有効化します。(オーディオが飽和に近づくとき赤く点灯します) - none : 前面上の変調ピーク LED を無効化でします - PTT : PTT ボタンが押されると前面 LED 上の赤く点灯します。
--	--

<MIC>メニュー


このメニューは、スクロールセクターで選択できます。

	<p>Mode : 以下のマイクロホンモードをセットアップできます(LEMO オプションの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> -2 wires:外部オーディオ入力に対して、PTT の使用が可能です -2 wires + bias:ほとんどの 2 線式マイクロホンに対して PTT が使用可能です
<p>PTT の設定により、平常時または PTT ボタンが押された場合に、トランスミッターがどの情報をどのように送信するかが定義されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Disable : PTT ボタンが押されても何も起きません。(トランスミッターは、AF+トーンスケルチを送信します) - Normal : PTT ボタンが押されるとトランスミッターは異なる RF 信号を送信します。レシーバーの構成によって、LINE (または COMあるいはその両方) 上で、音声の有効化/無効化ができます。 - Muting : トランスミッターは音声を送信しません。音声は切断されてマイクロホンに入りません。 - No Data : トランスミッターはトーンスケルチもバッテリーデータも送信しません。値を変更するにはセクター(<+/->)を使用し、確定するには<click>を使用します。 	

注 : DPA オプション(2 ピンマイクロドットオーディオコネクタ)の場合は、MIC モードメニューに 5 通りの設定があっても、<2 wires>または<2 wires+bias>モードしか設定できません。

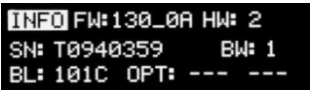
<NAME>メニュー

このメニューは、スクロールセクターで選択できます。

	<p>このメニューでは、装置にセットされている周波数およびトランスミッターの名前を表示することができます。</p> <p><CH>/<GAIN>の両ボタン(Ⓑ+Ⓒ)を同時に押しても、このメニューに入ることができます。</p>
--	--


<INFO>メニュー

このメニューには、スクロールセクターで選択できます。

	<p>このメニューでは、以下の内容が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - FW バージョン - HW バージョン - シリアル番号 - 帯域幅 - ブートローダーバージョン - オプション
--	--

<IRDA>メニュー


このメニューは、スクロールセクターから選択できます。

	<p>このメニューが表示されている間、装置はセットアップまたはファームウェアアップグレードのために、IRDA に接続することが可能です。</p> <p><u>注: IRDA インタフェースが使用可能な状態で、約 10 秒間何の通信もない場合、IRDA インタフェースは自動的にオフされます。</u></p>
--	---

装置に電源を入れると、IRDA インタフェースは、14 秒間使用可能となります。


<LOCK>メニュー

このメニューは、スクロールセクターで選択できます。

	<p>セクターボタン(<click>)を長押し(2 秒)すると、MTP41 が送信モードでロックされます。</p> <p>ロックを解除するには、もう一度セクターボタンを長押しします(2 秒)。</p>
--	--

<BOOTLOAD>メニュー

このメニューには、クイックチャンネルセットアップボタン(<ch>と<gain>)両方を同時に押しながらトランスミッターをオンにするか、FW 更新用の IRProgrammer を使用して、IRDA 経由で装置に接続すると表示できます。

	<p>装置は、強制的にブートローダーモードとなり、ファームウェアアップデートが可能になります。</p>
--	---

以下の表には、設定可能なパラメーターおよび関連の範囲設定をまとめてあります。

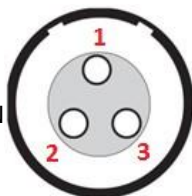
メニュー	パラメーター	意味	範囲設定
TUNING	CH	チャンネル	0～59
	GR	グループ	0～39 + 同期グループ
	Freq	周波数	MTP41 のモデルに依存します。 1 470～640 2 566～798 3 510～698
AUDIO	AF In Gain AF Level	オーディオ信号のゲイン	1 dB 刻みで-60～+40 dB 1 dBu 刻みで-54～+46 dBu
	Phase	オーディオ信号の位相	0°または 180°
	HP Filt.	高域フィルター	Flat/60/80/120/170/250/400 Hz
	Noise R.	ノイズ軽減	ENR:Wisycom 拡張 NR、ノイズ最適化 ENC:Wisycom 拡張 NC、音声最適化
RF/BATTERY	RF Power	RF 電力	50 mW/10 mW (電力プロファイルに応じて)
	Battery	バッテリータイプ	Alkaline / NiMH / Lithium アルカリ/ニッケル水素/リチウム
LED	Led Light	電源スイッチ 緑色輝度	0～16
	Led Mode	電源スイッチ LED (図 3 を参照)が赤く点灯するタイミングを定義します。	None: 無点灯 ModPeak: オーディオが飽和に近づいたとき PTT: PTT ボタンが押されたとき
MIC	Mode	マイクロホンのタイプ	2 wires 2 wires + bias 3 wires
	PTT Mode	トランスミッターがどの情報をどのようにして送信する必要があるかを定義します。	Disable: PTT ボタンが押されても何も起こりません。(トランスミッターは AF+ トーンスケルチを送信します) Normal: PTT ボタンが押されるとトランスミッターは異なる RF 信号を送信します。レシーバーの構成によって、LINE (または COM あるいはその両方) 上で、音声の有効化/無効化ができません。 Muting: トランスミッターは、オーディオを送信しません。音声は切断され、マイクロホンに入りません。 No Data: トランスミッターは、トーンスケルチもバッテリーデータも送信しません。

MIC Mode 設定(LEMO オプションの場合のみ)

MIC モード:	ピン配列	ゲイン	PTT	LED モード
2 wires	1=GND 3=AF	-60/40 dB	Disable Normal Muting data No	None Mod.Peak PTT
2 wires + bias	1=GND 3=AF+5.5V	-60/40 dB	Disable Normal Muting data No	None Mod. peak PTT
3 wires	1=GND 2=5.5V 3=AF	-60/40 dB	Disable No data	None Mod. peak

3 ピン LEMO コネクタ

(マイク上の FVB.00.003.NLN)



WISYCOM TX MANAGER の使用方法

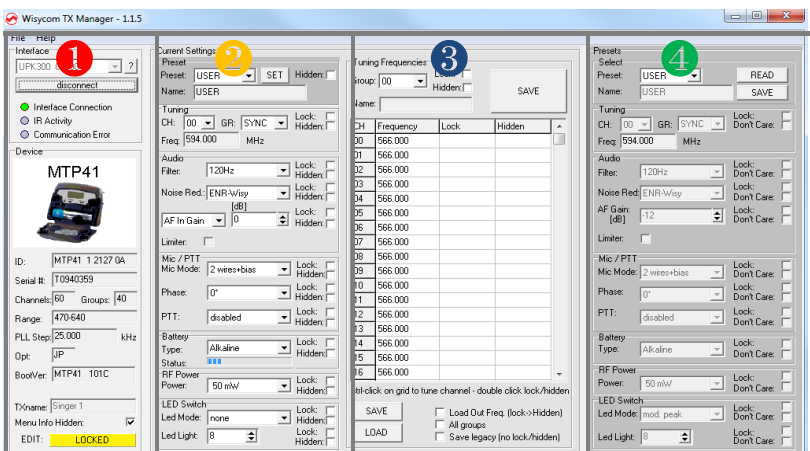
Wiscom TX Manager は、Wiscom 社製トランスミッターの構成の読み込み、修正および更新を行うことができます。その際、以下を行います。

- プログラマーUPK300E/UPKMini またはレシーバーMRK950/MRK960 を **USB 接続**で PC に接続する
- Wiscom TX Manager を起動する
- トランスミッター上の IRDA 通信を使用可能にする(<IRDA>メニューを参照)

注：Wiscom IR Programmer は、MRK950/MRK960 がイーサネットケーブルを使用して、PC に接続されている場合には機能しません。

Wiscom IR Programmer のウィンドウは、以下の 4 つの部分に分割されています (下図参照)。

- 1 <Interface>パネルおよび<Device>パネルは、接続されているデバイスの主要な情報をすべて表示します。
- 2 <Current Settings>パネルは、現在の構成内容を表示します。<PRESET>パネルから以前保存された構成内容を選択して現在の設定としてロードできます。
- 3 <Tuning Frequencies>パネルにより、グループ、チャンネルおよび周波数を扱うことができます。
- 4 <Presets>パネルにより、さまざまな構成プリセット値の読み込み、変更、および保存を行うことができます。



それぞれ異なる 10 個の構成項目を使用できます。

- **FACTORY** 構成項目は固定されており、パラメーターの変更はできません。
- **USER** 構成項目は、**OLED** ディスプレイ(<PRESET>メニューを参照)を使用して保存できる唯一の構成です。注：この構成名を変更することはできません。
- 残りの 8 つの構成項目は、名前および全パラメーター値の両方を変更できます。

INTERFACE パネルと DEVICE パネル(1)

プログラムは、はじめに機器の検出を行います。それが<Interface>パネルに表示されます。

機器を選択し、<connect>ボタンを押して通信を開始します。検出された機器の種類を示す<Interface>パネル上の図を参考にして選択します。「IR アクティビティ」の LED が点滅し、プログラムが機器からの接続応答待ちであることを示します。

正常に接続すると、「インタフェース接続」の緑色 LED が点灯しますが、接続エラーの場合は「通信エラー」の LED が点灯します。

サポートされている機器を検出すると、ソフトウェアは、自動的にリモート構成のデータだけでなく、事前プログラミングされている周波数も読み込みます。

はじめは、不要な操作を避けてパラメーターの変更ができないように、<Device>パネルの一番下にある<EDIT>ボタンは黄色で **LOCKED** (ロック) と表示されます。<EDIT>ボタンを押すと、灰色で **UNLOCKED** (ロック解除) と表示され、構成の修正が可能となります。

このパネルでは、トランスミッターに名前を割り当てることができます(FW v.1.22.0F 以前では利用できません)。このパラメーターに、トランスミッターの情報メニューを非表示にするフラグがあります(FW v.1.22.0F 以前では利用できません)。

CURRENT SETTINGS パネル (2)

<Current Settings>パネルでは、以下のことができます。

- <Preset>パネル → 10 個の構成から 1 つを読み込みます。
- その他のパネル → すべての構成のパラメーター(OLED ディスプレイで変更可能なものと同じ)を修正できます。設定を変更または OLED ディスプレイ上に表示させないようするため、該当の<lock>/<hidden>をクリックして、各パラメーターをロックまたは非表示にできます。



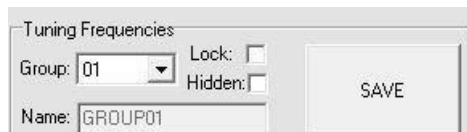
注意：<Current Settings>パネルで行った修正内容は、すぐに有効になります。直接、機器に適用されてメモリに保存されますが、プリセット構成には保存されません。

TUNING FREQUENCIES パネル(3)

<Tuning Frequencies>パネルから、周波数グループ(0~39)を選択して、それぞれのグループに以下の操作を行うことができます。

- グループ名の修正
- グループのロックまたは非表示、あるいはその両方
- 選択されているグループの各チャンネル(0~59)の周波数値および関連のステータス(ロック/非表示)の変更(周波数リストの表の中央部)

パネルの上部にある<SAVE>ボタンで選択したグループに対する変更内容(グループ名、グループのロック/非表示)を保存します。



特定のチャンネルの周波数値を変更するには、周波数パネルの表のマス(行=チャンネル番号)をダブルクリックし、新規の周波数値を挿入し、<OK>ボタンをクリックします。

CH	Frequency	Lock	Hidden
00	630.000		
01	630.000		
02	630.000	lock	hidden
03	630.000		

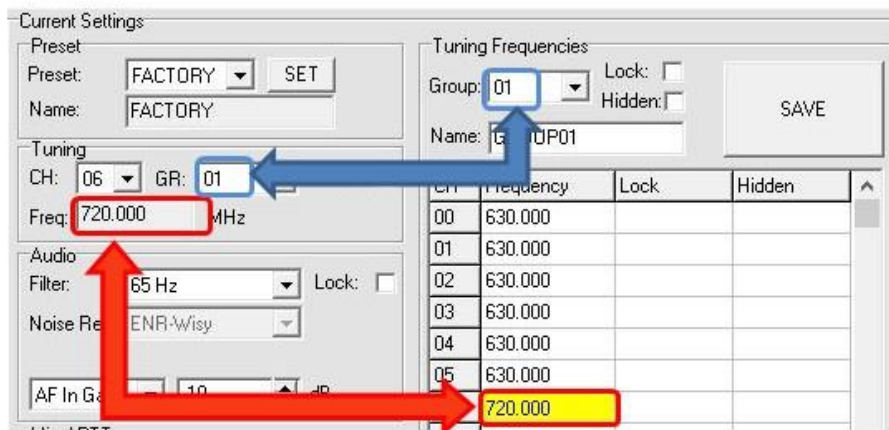
double click to LOCK the channel

double click to HIDE the channel

特定のチャンネルをロック/非表示にするには、周波数パネルのマスをダブルクリックします。

注：キーボード上の **CTRL** ボタンを押し続け、周波数表上に表示されている目的のチャンネル/グループをクリックすると、同調プロセスが実行されます。<Current Settings>パネルの<Tuning>を設定しても同じ結果が得られますが、この方法の方が簡単です。機器は再同調されやすいため、周囲で他機の周波数を変更する間は、必ず電源をオフにしてください。

現在同調中のチャンネルが、表上に表示されているグループと同じ場合には、表上の関連のセル(チャンネル)の背景色が黄色になります。



パネルの下部にある<LOAD>/<SAVE>ボタンを使用すると、選択したグループの周波数を **wdf** ファイルに **ロード** または **保存** することができます。すべてのグループの周波数を保存するには、上方のボタンをクリックします。旧来のオプションでは非表示/ロック情報は保存できません。



PRESETS パネル(4)

<Presets>パネルから、10個の構成すべてを管理できます。

FACTORY および USER の構成以外、各構成の名前および全パラメーター値を設定することができます(下表参照)。

プリセット	名前*	ロック/無関係	パラメーター値
FACTORY			
USER			√
その他	√	√	√

√=変更可能

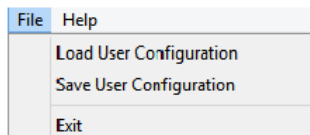
*名前は機器のメニューの設定リスト上に表示されるため、分かりやすい名前をつけるようにしてください。意味の不明な名前は使用しないでください。

パラメーターが<locked>の場合には、機器のメニュー(OLED ディスプレイを使用)では修正できません。一方、<don't care>が有効になっている場合には、構成を読み込んでも、パラメーターの値は変更されません。

注意：変更内容は保存しないと反映されません。

注：裏技として、ロック状態のパラメーターをどうしても修正する必要がある場合には、OLED ディスプレイ(<PRESET>メニューを参照)から、その構成を USER 項目に保存した後、その USER 構成をロードします(この方法により、すべてのパラメーターのロックが無効化されるので、パラメーターを修正できるようになります)。

FILE メニュー



パネルの上部左にあるファイルメニューを使用すると、機器の**全構成**を.wcfファイル(Wisyscom コンフィギュレーションファイル)に**保存**、または**ロード**することができます。

.wcf ファイルの保存

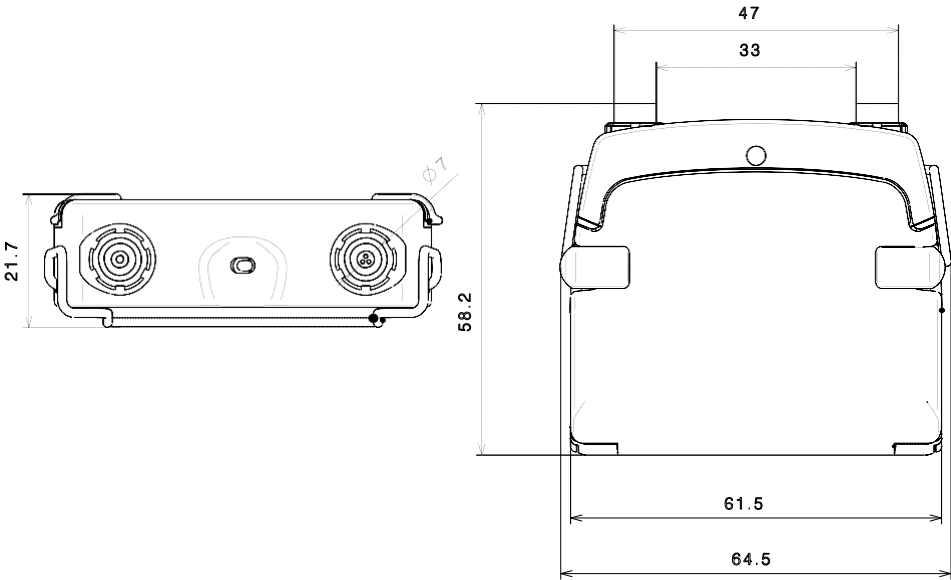
機器が正しく接続されている状態で、<File> -> <Save User Configuration>を選択して、保存先ファイルを選択します。

.wcf ファイルのロード

ユーザー構成をロードするには、<File> -> <Load User Configuration>を選択して、表示されたフォームから、保存したデータファイルを選択します。この操作により、他のデータはそのままの状態、特定の構成をロードすることができます。

技術仕様

切替可能チャンネル	40 グループ各 60 チャンネルに割り当てられた 2400 チャンネル(特定の周波数範囲内)を専用ボタンで選択
切替幅	最大 232 MHz まで、帯域による(次ページの「 <u>別オプション</u> 」を参照)
周波数	水晶 PLL 周波数シンセサイザ回路(25 kHz 刻み)
周波数安定度	± 2.5 ppm (定格温度範囲内)
温度範囲	-10~+55°C
最大 RF 電力	<ul style="list-style-type: none"> 10 mW (ERP) (現地基準に準拠) 50 mW (ERP) (注: 現地基準に準拠するため中間電力を使用不可にできます)
スプリアス放射	2 nW 未満
変調	プリエンファシス付き広帯域 FM
公称偏差	±40 kHz (ピーク偏差= ±56 kHz)
テレメトリ機能	<p>MTP41 は、以下に適したデジタル変調副搬送波も送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> トーンスケルチ動作 リモートバッテリー監視 オプション PTT(プッシュ-ツ-トーク)動作
AF 入力コネクタ LEMO オプション	<p>以下 3 通りのオプションで<mic>ディスプレイメニューで設定可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 wires : ゲイン選択可能範囲-60~+40 dB (-54~+46 dBu ピーク)、バイアス電圧なし 2 wires + bias : ゲイン選択可能範囲-60~+40 dB (-54~+46 dBu ピーク)、4k7 バイアス電源で 5.5 V 3 wires : ゲイン選択可能範囲-60~+40 dB (-54~+46 dBu ピーク)
AF 入力レベル	100 dB、ただし、ピーク偏差(1 kHz)で、-54 (775 uV)~46 dBu (15.5 V)の範囲で 1 dB 刻みで調節可能
最大入力レベル	クリッピングで+46 dBu (15.5 V)、公称レベルで+20 dBu (7.75 V)
ノイズ軽減	<p>独立したアタックタイムと回復タイムを持ち、ノイズ最適化された ENR (Wisycm 拡張-NR)</p> <p>独立したアタックタイムと回復タイムを持ち、音声最適化され軽減プリエンファシスを持つ ENC (Wisycm 拡張-NC)</p>
AF 帯域幅	<ul style="list-style-type: none"> 45 Hz~21 KHz (3 dB) 55 Hz~20 KHz (1 dB)
ひずみ	0.3 %未満(普通、0.15 %)
信号対ノイズ比	<ul style="list-style-type: none"> 普通、偏差 40 kHz の 115 dB (A) rms 普通、偏差 56 kHz の 121 dB (A) rms
LED	<p>無線電源スイッチ上の 2 色(赤&緑)の LED インジケータは以下を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 無線送信ステータス: 緑点灯-電波送信中 バッテリー寿命ステータス: <ul style="list-style-type: none"> 緑-安定点灯(25%超) 緑点滅-ゆっくり点滅(25%未満) -速く点滅(12%未満) 変調ピーク(作動時) PTT ステータス:作動時赤点灯 <p>高コントラスト OLED (有機発光ダイオード) 2 色ディスプレイ(96 x 36 ピクセル)</p> <p>8 段階バッテリー寿命指示: 7 個のバー(100%-87%-75%-63%-50%-38%-25%)と「空白バー」高速点滅(残存 12%)</p>
ディスプレイ	
PTT 機能	AF コネクタのピン 3 を外部プッシュボタンにセットアップ可能です
電源装置	1 個の単 3 電池(アルカリ、充電可能ニッケル水素、リチウム)
MTP41 バッテリー寿命	<ul style="list-style-type: none"> 約 11 時間、ただし、連続動作 50 mW リチウム電池 約 8 時間、ただし、連続動作 50 mW ニッケル電池 約 4.5 時間、ただし、連続動作 50 mW アルカリ電池
寸法	58.2 x 64.5 x 21.7 mm (高さ-幅-奥行)
重量	約 80 g バッテリーを除く (バッテリーを含む 120 g)



電力プロファイルおよび国別周波数範囲

- EU** 最大電力 50 mW (ヨーロッパ)
- US** 最大電力 50 mW (米国とカナダ)
- JP** 最大電力 10mW (日本)

別オプション

- ・ オーディオコネクタ

- LM** 3ピン LEMO コネクタ
- DP** 2ピン DPA マイクロドットコネクタ

- ・ カラー



- PV** 本体カラー：チタングレー(セラミック被膜)
- BL** 本体カラー：ブラック(粉体塗装)

- ・ 周波数範囲

- B1** 470～640 MHz
- B2** 566～798 MHz
- B3** 510～698 MHz

商品コードは、当社ウェブサイトの<製品>の<別オプション>エリアをご参照ください。

準拠

モデル	準拠基準	最大電力	国名
MTP41 MTP41-EU	EN 301 489-1/-9 EN 600065 EN 300 422-1/-2	50 mW	ヨーロッパ CE
MTP41-US	 PART 74 FCC-ID:POUMTP41 RSS-123, RSS-102 IC:11967A-MTP41 上限 698 MHz	50 mW	米国、カナダ
MTP41-JP	 202-LSC056 上限 714 MHz マイクの識別マークは バッテリー収納部にあります	10 mW	日本



製品のご使用には、自国の法令を遵守してください。

メーカー宣言

以下の要件に準拠しています。

- RoHS 指令(2002/95/EC)



- WEEE 指令(2002/96/EC)

稼働寿命の尽きたダイバーシティトランスミッターは、対応する集積地または再生利用センターで処分してください。



- バッテリー指令(2006/66/EC)

供給バッテリーまたは充電可能バッテリーは再生利用可能です。特別廃棄物として処分するか、担当の専門代理店に返却してください。環境保護のため、消耗したバッテリーのみを処分してください。

FCC 適合宣言

本装置は、FCC 規則のパート 74 に準拠します。動作は、以下の 2 条件に従います。

- (1) 本装置が、有害な干渉を起こさないこと。
- (2) 本装置は、所定外の動作を引き起こす可能性のある干渉も含めて、受信したいかなる干渉も受容すること。

準拠の責任者から明示的な承諾を受けずに変更や改造を加えると、ユーザーの装置操作権限を無効にする場合があります。

FCC ID は、バッテリー収納部の近くにあります。

FCC-ID:POUMTP41

カナダ産業省への準拠声明 (MTP41)

原文は英語

本装置は、カナダ産業省の RSS-123 に準拠します。動作は、以下の 2 条件に従います。

(1) 有害な干渉を起こさないこと。(2) 所定外の動作を引き起こす可能性のある干渉も含め受信したいかなる干渉も受容すること。

フランス語

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio RSS-

123. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

イタリアのみ

Obblighi di informazione agli utilizzatori

ai sensi dell'art.13 del Decreto Legislativo 25 luglio 2005, n. 151 "Attuazione delle Direttive 2002/95/CE, 2002/96/CE e 2003/108/CE, relative alla riduzione dell'uso di sostanze pericolose nelle apparecchiature elettriche ed elettroniche, nonché allo smaltimento dei rifiuti"

Smaltimento di apparecchiature elettriche ed elettroniche di tipo professionale



Il simbolo del cassonetto barrato riportato sull'apparecchiatura o sulla sua confezione indica che il prodotto alla fine della propria vita utile deve essere raccolto separatamente dagli altri rifiuti.

La raccolta differenziata della presente apparecchiatura giunta a fine vita è organizzata e gestita dal produttore. L'utente che vorrà disfarsi della presente apparecchiatura dovrà quindi contattare il produttore e seguire il sistema che questo ha adottato per consentire

la raccolta separata dell'apparecchiatura giunta a fine vita.

L'adeguata raccolta differenziata per l'avvio successivo dell'apparecchiatura dismessa al riciclaggio, al trattamento e allo smaltimento ambientalmente compatibile contribuisce ad evitare possibili effetti negativi sull'ambiente e sulla salute e favorisce il reimpiego e/o riciclo dei materiali di cui è composta l'apparecchiatura.

Lo smaltimento abusivo del prodotto da parte del detentore comporta l'applicazione delle sanzioni amministrative previste dalla normativa vigente.

Smaltimento batterie usate



Questo prodotto può contenere batterie. Questo simbolo apposto sulle batterie significa che non possono essere smaltite insieme a normali rifiuti domestici, bensì devono essere depositate negli appositi punti di raccolta delle batterie.

Iscrizione al Registro A.E.E. n. IT0910000006319

EC 準拠宣言

DICHIARAZIONE DI CONFORMITA'
DECLARATION OF CONFORMITY

Il sottoscritto, rappresentante il seguente costruttore
The undersigned, representative of the following manufacturer

WISYCOM S.r.l.
 via Spin, 156 - 36060 Romano d'Ezzelino (VI) - Italy

DICHIARA che l'apparecchiatura descritta in appresso:

DECLARES that the product:

Descrizione <i>Description</i>	Pocket transmitter
Modello <i>Model</i>	MTP41

è conforme alle disposizioni legislative che traspongono le seguenti direttive:

- direttiva 2004/108 CE (Direttiva EMC)
- direttiva 2006/95 CE (Direttiva Bassa Tensione)
- direttiva 99/5 CEE (Direttiva Apparecchiature Radio)

is in accordance with the following Directives:

- 2004/108 EC Directive (EMC Directive)
- 2006/95 EC Directive (Low Voltage Directive)
- 99/5 EEC (Radio Equipment Directive)

e che sono state applicate tutte le norme e/o specifiche tecniche di seguito indicate
and that all the following standards have been applied

EN 60665:2002 + A1:2006 + A11:2008 + A2:2010 + A12:2011

EN 301 489-1 V1.9.2

EN 301 489-9 V1.4.1

EN 300 422-2 V1.3.1

Luogo
Place Romano D'Ezzelino

Data
Date 5 June 2012

Firma
Sign Franco Maestrelli
(nome e funzione)
 (name and title) ↓

WISYCOM s.r.l.
 Franco Maestrelli
 Amministratore Unico





Via Spin 156 • I-36060 Romano d'Ezzelino • Italy

電話 : +39 -0424 -382605

•ファックス : +39 - 0424 - 382733

www.wisycom.com •電子メール : sales@wisycom.com

